

## 中禅寺湖ワークショップ開催概要

中禅寺湖の素晴らしい自然環境と明治から昭和初期にかけての華やかな歴史を活かした、中禅寺湖ならではの魅力を実感するため、地域住民および関係者等が参加する「中禅寺湖ワークショップ」を開催した。

### (1) 概要

#### 日時

平成 24 年 9 月 23 日（日）10:00～15:30

#### プログラム

午前の部 セーリングカヌー体験（会場：中禅寺湖畔ボートハウス下の浜辺）

10:00～10:10	開会挨拶
10:10～10:40	セーリングカヌーのデモンストレーション
10:40～12:10	体験「セーリングカヌー試乗会」

午後の部 講演（会場：増養殖研究所 さかなと森の観察園 おさかな情報館セミナー室）

13:45～14:15	講演①「国内外の湖からみた中禅寺湖」 秋山治氏（セーリングカヌーイスト）
14:15～14:45	講演②「国際避暑地としての中禅寺湖」 福田和美氏（日光近代史研究者）
14:45～15:30	対談「中禅寺湖の魅力とその活かし方」
15:30	閉会

#### 参加者数

午前の部 8 名、午後の部 22 名

(2) 中禅寺湖ワークショップの様子

<午前部>

セーリングカヌーのデモンストレーション



セーリングカヌー体験



<午後の部>

秋山講師による講演



福田講師による講演



対談



### (3) 記録

#### 講演①「国内外の湖からみた中禅寺湖」 秋山 治氏

##### 世界の湖と日本の湖

- ・カナディアンロッキーのケブレ湖、ミネオンカレー、レイクパウエルなどは美しすぎて、少々の美しさでは感動しない自然不感症のような状態になった。その他、世界で一番高い湖であるチチカカ湖、1万5千年の歴史を持つレマン湖などいくつもの湖を巡った。
- ・日本の湖は、北は宗谷岬から南は池田湖まで帆走した。日本の湖も皆それぞれ美しいが、水質、景色、歴史といい、中禅寺湖が日本一だと思う。中禅寺湖は世界と比べても美しい湖。

##### 中禅寺湖の魅力

- ・中禅寺湖を含む奥日光地域、かつて明治から大正期にかけてフランス、イタリア、イギリス等々の諸外国の外交官などが、豊かな自然の中でフィッシングやヨットなどを楽しむ避暑地として、にぎわい、あたたかもヨーロッパのリゾート文化が出現したかのようであったという過去の輝かしい歴史を想起する。
- ・いい湖の条件は、静寂、美、調和。私が思う守りたい資産はこういった景色。

##### 中禅寺湖の価値観再発見、中禅寺湖の将来へのグランドデザイン考

- ・この地域の魅力をさらに高めかつての国際的避暑地の雰囲気醸し出し、にぎわいを創出する。いわば、中禅寺湖を含む奥日光地域をグレードの高い避暑地として単なる開発ではなくリニューアル、再整備すればそれでいい。
- ・イタリア大使館別荘、西六番別荘、中禅寺湖畔ボートハウスは、中禅寺湖の風景とは無縁に存在しているものではない。明治期にはじまる避暑地中禅寺の歴史の中に位置づけられるものであり、それぞれの場所で自然風景と一体となって中禅寺湖の風景を特徴づけてきた。奥日光の歴史資産であるとともに、ヨーロッパの人々も楽しんだ奥日光の風景や湖畔別荘は大きな景観資産だと思う。
- ・中禅寺湖は、足し算でも掛算でもなく、引き算して、残ったものを磨いていけばいい。「凜」としたグランドデザインを最優先すべきであり、キーワードは、「エレガント」「気品」「瀟洒（しょうしゃ）」だと思う。
- ・今の、この中禅寺湖を守ってほしい。これが資産だと思う。

##### 湖面を有効活用する提案

- ・国際 OP 級のヨットレースを招致してはどうか。オブティミストは、全幅 1.13m の小さなヨット。世界中の人々に親しまれているヨットであり、国際的に 15 歳までの子供達にだけ許されている。毎年国際レースが毎年行われており、非常に経済効果がある。国際レースの誘致にあたっては、地元の受入体制、宿泊キャパシティ、ボランティアなど課題も多いが、中禅寺湖はセーリングを通じて健全な青少年を育成する最も相応しい湖として脚光を浴び、世界のセーラーの心の故郷になる大きなポテンシャルを秘めている。

## 講演②「国際避暑地としての中禅寺湖」 福田 和美氏

### 明治維新前後の中禅寺湖：『風景の時代』

- ・明治時代の奥日光は山岳修験者と湯治客の世界であり、宗教的な自然風景であった。その頃、横浜などに外国人居留地が設けられたが、基本的には「外国人遊歩区域（約 40km 四方）」の日帰り旅行しか許されなかった。西洋人にとって日本の蒸し暑さは耐え難く、病気が続出、涼しいところで療養したいというニーズを受け、明治 7 年、日本政府は内地旅行を許可。こうして、特権階級だけでなく、一般外国人も日光へ避暑旅行に来る時代が始まった。
- ・日本語書記官アーネスト・サトウが奥日光の紹介記事を英字新聞に連載したことも日光が脚光を浴びるきっかけとなった。
- ・明治 18 年、東京一宇都宮間の鉄道が開通し、日光は本格的な避暑地に向かっていく。

### 避暑別荘地へ姿を変える近代の中禅寺湖：『景観の時代』の入り口

- ・明治 23 年、日光まで鉄道が乗り入れて旅行客が一挙に増えた。閑静な別荘地であった日光山内・西町付近は騒々しくなったため、別荘所有者は他にふさわしい土地を求め始め、当時は辺鄙すぎた中禅寺湖畔に目を付けた。
- ・明治 22 年、現在の第一いろは坂の原型が完成し、中禅寺湖畔が避暑地が変わっていく大きな弾みとなった。人力車に乗っていけることが、体の大きな外国人にとってよかった。
- ・三菱外国人顧問のトーマス・グラバーが中禅寺湖に別荘を建設。また、駐日英国公使として日本に戻ったサトウの影響力で、日光は日本を代表する避暑地へと発展していく。

### 神々の湖から、人間たちの湖へ・・・風景から景観へ

- ・中禅寺湖の風景の中に現れた変化のシンボルがヨットであった。ヨットだけではなく、登山、フィッシングなどイギリスらしいフィールドスポーツを外交官たちは持ち込んだ。外交官ばかりでなく、在日イギリス人の多くが避暑旅行先に中禅寺湖を選んだ。
- ・セーリングは、マス釣りと双璧をなす中禅寺湖のシンボリックなスポーツとなっていた。

### 『男体山ヨット倶楽部』が遺したもの・・・近代中禅寺湖の景観の原点

- ・中禅寺湖にヨットが増えるに連れ、競いあってセーリングを楽しむようになる。明治 39 年、マクドナルド英国大使が初代会長となり、男体山ヨット倶楽部誕生。夏の間 15 回程のレースを開催、避暑地の社交場という役割を果たしていた。
- ・昭和 10 年には、横浜ヨット倶楽部と男体山ヨット倶楽部の対抗レースも開催された。

### まとめ

- ・フライフィッシングとヨットは、車軸の両輪のように、中禅寺湖畔の景観とその地域の近代の歴史と文化に大きな役割を果たしていた。自然風景としての中禅寺湖に、人間の営為、フライフィッシングやヨットが加算されたことで、単なる『風景』に生命が宿り、物語のある『景観』として人間の記憶に組み込まれていった。
- ・そうした、我々の記憶の奥深くにある、あの日の理想の景観を再び呼び戻すことが、『避暑地日光、避暑地中禅寺』の再生には絶対に不可欠なことではないだろうか。

## 対談：「中禅寺湖の魅力と活かし方」

(司会) 世界の湖と比べても中禅寺湖が美しいと思うのはなぜか？

秋山氏：巨大な風景の中では人間は恐怖感を感じるが、中禅寺湖はコンパクトで落ち着いていて、人の温かみ、ぬくもりが感じられる。まさに、福田さんのおっしゃった「生命が宿っている」という言葉の通りだと思う。セーリングも命を宿していることにつながる。そこに文化と人が大自然の中にかかわっている。

(司会) 「風景が景観になる」ということをもう少し話していただくと・・・

福田氏：単に自然があるだけでは美しいだけ。自然に人的なものが加わることで意味づけられ、物語性を持つ。そして、人間の記憶の中に組み込まれ、景観になっていく。例えば、家族が風景の中に立って写真を撮ったならば、それは景観になり、記憶になるだろう。特に観光地の場合は、景観として印象付けられていくことが重要だと思う。

(司会) 観光客にとって、良い景観をつくりあげていくことのメリットは？

福田氏：人々の中に風景を近づけてくるという作用があるのではないか。そのことで、その風景がより人々に近づいていく。それを見ている人たち、体験している人たちの心に沁み込んでいくのではないか。

秋山氏：観光客にとっては、風景だけではなく、そこに白いセールがある方が美しいようで、セーリングカヌーはよくカメラマンの被写体になる。

(司会) 地元の方にとっての、中禅寺湖でのセーリングカヌーとは？

会場：かつての中禅寺湖は三角の白い帆が似合う湖であったが、ヨットをする人がいなくなり、今は手漕ぎボートやスワンボートになった。大正10年から続いている神事「水神祭」では、6年前からボートレースを復活させてスワンボートレースを行っているが、スワンボートの老朽化が問題となっている。ヨットに切替えていった方がいいという案もできているが、素人にはヨットは難しい。

秋山氏：セーリングは簡単にできるものでもないもので、なかなか難しい問題。

福田氏：中禅寺湖の歴史からみると、ヨットと釣りは車軸の両輪のような存在。既にマス釣りのメッカではあるが、本来の中禅寺湖の景観が完成するためには、もう片輪の男体山ヨット倶楽部の姿が必要。奥日光のフィールドとして、中禅寺湖というリングはあるが、そこに登場する選手として別荘、釣り、ヨット倶楽部が3点セットで揃うことで、初めてトータルに景色が完成するのだろう。

スワンボートの老朽化については、手漕ぎボートでレースをし、スペシャリストがセーリングをすることも考えられるのではないか。背景にセーリングがあることで景色は完成する。そして、ボートをやっている人がセーリングに興味を持つようになり、スワンボート→ボート→セーリングのチャンスを提供するシステムが出来上がればよい。男体山ヨット倶楽部もすぐにできたわけではない。何年もかかるだろうが、種をうえていくことが重要。

秋山氏：男体山ヨット倶楽部の再生に取り組みたいとは思いますが、当時は超上流階級のメンバーで行われていたことが現代と大きな違いである。

福田氏：フライフィッシングは、今は誰でもできる。ただ、当時の「マス釣りを紳士的にやる」という精神は引き継がれている。ヨットも、フェアプレイでやる、伝統を守ってやる、スポーツマンシップというキーワードで行えば、上流階級でないとできないということではない。軸足がぶれないように、今の時代にあった形で復活させていけばいい。

秋山氏：それであれば、今まさに私達がやっている活動である。先日行った関東大会には、全国から34艇が参加した。広島や大阪などの遠方からの参加者もいたが、それは中禅寺湖に魅力があるからこそである。

会場：男体山ヨット倶楽部のルールブックでは、現地調達でないと参加資格がないとされている。ハイクラスにならないように是正したのではないか。

秋山氏：ヨットはF1と同様、同じスペックの艇で競うため、技術の勝負になる。ここがヨットの醍醐味。男体山ヨット倶楽部とDNAは違うが、やっている目的は全く一緒。

(司会) 午前中に体験された方の感想は？

- 最初はぐらぐらして怖かったが、進みだすと楽しかった。またやってみたい。
- いつもは山の中を歩いて自然を紹介している仕事をしている。今回は、水の中から、自然を見る。別の視点から自然を楽しむことを感じた。また新たな自然の魅力を、そういった方々から発信してもらいたい。
- 中禅寺湖には何度か訪れたことがあるが、知らないことが多かった。栃木県民として、もっと勉強しなくては。湖側からの景色は初めてだったが、湖側から見た魅力、小さな船からの魅力があった。
- 禁漁区の自然環境は素晴らしい。あの辺りを見ずに観光客が帰るのはもったいない。

(司会) ヨットが一つの風景になるという話だが、ヨットがどんどん増えるといいという話は、それでいいのか？

会場：以前、イタリア大使館別荘付近にセーリングカヌーで着岸し、カップラーメンを食べ、栈橋から飛び込む、という方々を見た。利用者が増えてくるとそういうマナーの悪い人も出てくるのではないか。

秋山氏：本当に耳が痛いこと。ヨットマンは紳士的でなければいけないというのが基本だが、ビジターの中で悪いマナーがいることも現実にはある。別のヨットクラブにもマナーを徹底しなければならない。着岸させていただける、そういう気持ちでやらせていただきたい。

会場：中禅寺湖の水質はこれ以上汚くすることはできない。かつてはもっともっと綺麗だった。我々は、この水を守って後世に引き継ぐ役割を担っている。中禅寺湖を西と東に分け、西を聖域とし、動力船を入れないということを環境省ともやってきた。なぜそうしたかという、魚の種の問題もある。水を大切にしていって、という地元の気持ちも利

用者には汲んでいただきたい。

会場：東日本大震災の影響で、釣りができず、観光客のボートもほとんど見られない。ヨットであれ、釣り船であれ、背景に何かがあることで観光客を呼ぶことになる。

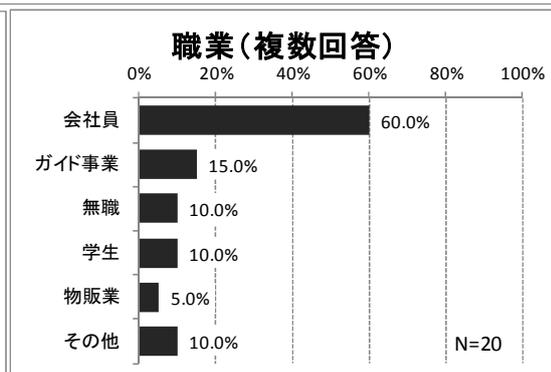
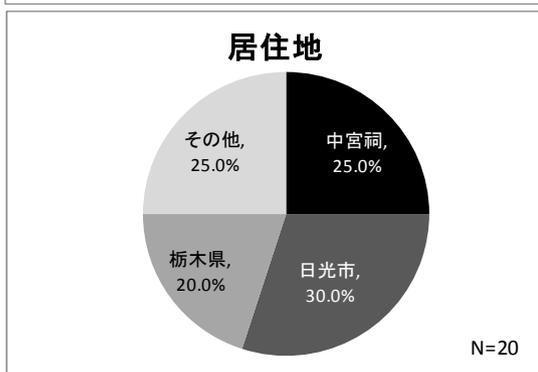
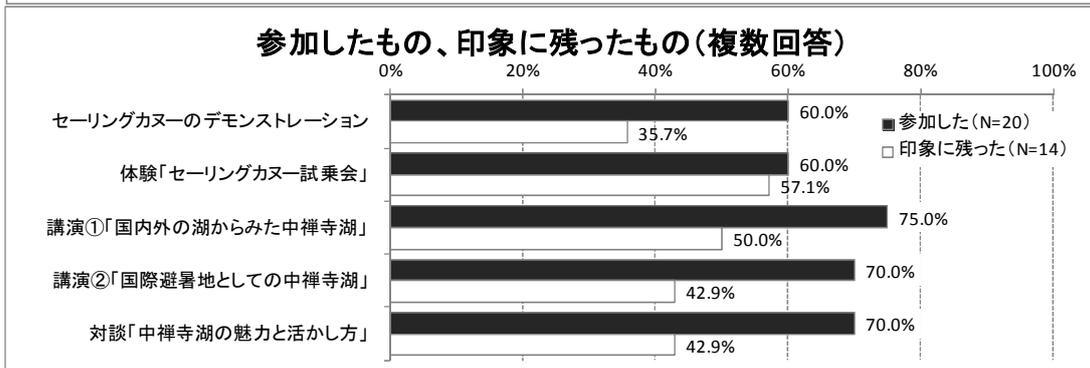
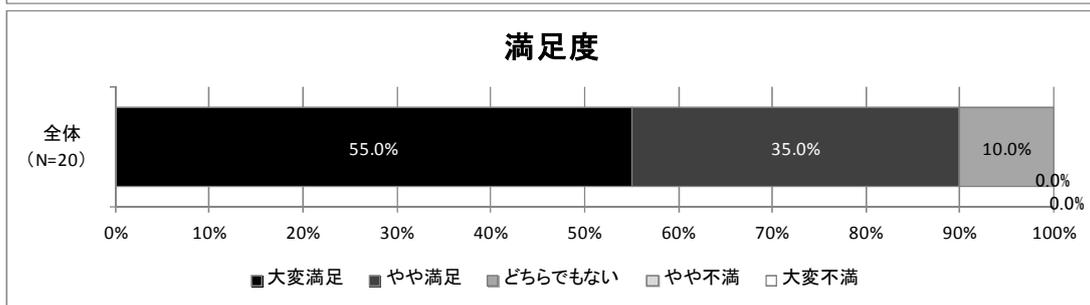
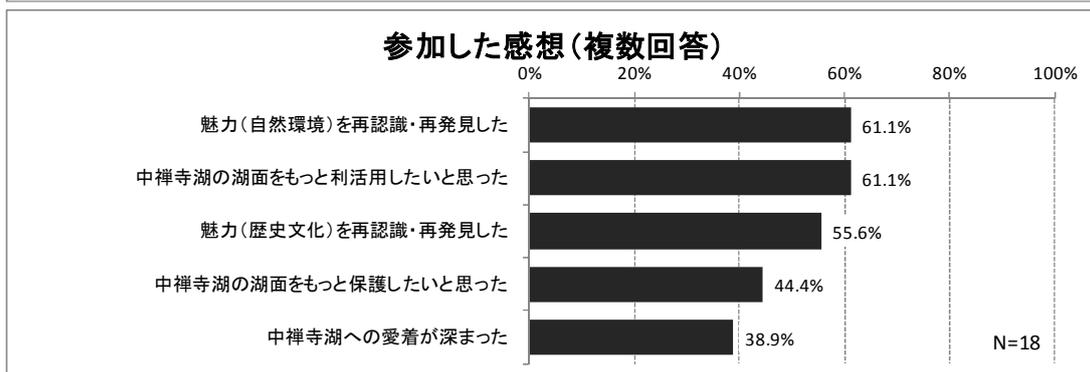
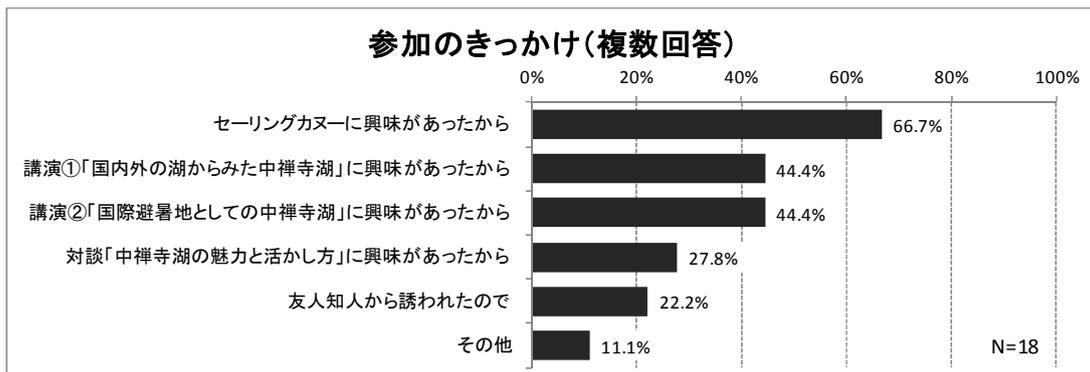
(司会) 最後に一言ずつお願いします。

秋山氏：世界的に見ても、日本の中でも、中禅寺湖の魅力はレベルの高いものである。地元の方々がこのことを認識して、今後の中禅寺湖の発展を考えていただけたらと思う。

福田氏：中禅寺湖の歴史的な裏付けから見ても、中禅寺湖の車軸の両輪は、釣りとヨットであった。どちらが欠けても歴史的な避暑地中禅寺湖が完結しないと思う。

もう一つは、マナーの問題。数年前、マクドナルド英国大使の曾孫と一緒に湯川で釣りをした際、極端な話したが、1時間の内で釣りをしていたのは15分で、残りの45分間は木に引っかかった糸をほどこしていた。彼らは最初になかったものは決して残さないという哲学であり、マナーがそこまで成熟している。中禅寺湖でも、何年か前は釣りの場所取りが問題になったが、時間が経つとともに釣りをしている人たちの中からはじき出された。それと同じで、ヨット、セーリングを楽しんでいる人の中にやんちゃな人たちがいても、時間とともにやんちゃをやっていられなくなるような雰囲気が出てくるのではないか。セーリングが定着することで、マナーも向上していく筈だ。

#### (4) アンケート結果



#### <参加した感想に関する自由意見>

- ・湖面からの風景等がとても新鮮でした。
- ・北海道にも負けない素晴らしい中禅寺湖。
- ・今まで知らなかった歴史を知ることができました。
- ・中禅寺湖は大使館別荘があったこともあり、とても静かな品のある湖のイメージがある。避暑地に選ばれているのもそのひとつ。”景観”を損なわず、大切な自然を人は守っていかなくてはならない。
- ・広く利用することは良いが、これ以上自然環境を汚し崩したくない。
- ・中禅寺湖の水を汚さない。きれいな水を後世に残したい。
- ・キーワードは良かったと思うし、イメージに合うと思いました。英国文化が残る意味がよくわかりました。
- ・知らなかった歴史をよく知ることができ、ヨットが普及することは中禅寺湖にとってプラスになると感じたから。
- ・趣味のセーリングカヌーを通じ、湖での遊びを広めたいです。遊びは心を豊かにし、人を呼び、絆を深めます。
- ・標高 1200mの湖でのセーリングを世界に発信、同じ価値観の人々との交流を図り、日光の活性化につなげていければ！！
- ・現在多くの湖がセーリングを規制している。利用させていただいている 1 人として今後共、マナーを守り、活用させて頂きたいと思います。

#### <印象に残ったこと>

- ・中禅寺湖の車軸の両輪というキーワードの重要性を感じることができた。
- ・中禅寺湖の利用の歴史
- ・中禅寺湖の歴史について
- ・中禅寺湖の歴史の素晴らしさ。
- ・ヨットに関して中禅寺湖のすばらしさ。目からうろこ
- ・開発×→利用○という発想法
- ・このままの中禅寺湖が良いとの意見が良い。
- ・中禅寺湖は日本の中でもトップクラスの景観ということがとても印象深く、また歴史においても、もっと他の人達にも知ってもらいたいと思いました。
- ・一部の興味を持った人達のグループのみ楽しみ、利用することの思いが、一部見えたのが、マイナス印象をもった。

#### <満足度に関する自由意見>

##### 大変満足

- ・中禅寺湖のすばらしさを再認識しました。
- ・もりだくさんだった。
- ・地元の魅力をもっと知って発信していきたいと思いました。セーリングカヌーもとてもよかったです。湖側から見る景観もすばらしかったです。”中禅寺湖”は胸をはっていきますが、自然の魅力を持つ歴史の土地だと思いました。
- ・歴史を人々へ伝えるということが大切なことと改めて感じました。

##### やや満足

- ・雨天でなければ良かった。もったいない。

#### <その他自由意見>

- ・地元の関係機関の方々の参加が少ないと感じた。より積極的に参加を促すべきであると感じた。
- ・大変楽しかったです。ありがとうございました。
- ・あるがままの自然の姿を残していくための活動につながるもの 1 つになる可能性を秘めていると思いました。中禅寺湖を訪れた方々には貴重な体験として印象に残り、地元の人々や子供達には原体験になっていくことで印象に残っていくようにつながっ

てほしい。人が自然の魅力を感じるにはやはり人が近くにいることが必要、伝えることが必要なのではないかと改めて思いました。

- カヌーセーリングが簡単にできるのならば訪れる人への魅力にもなると思います。しかしながら今現状は難しいということであれば将来的に国際ヨットのイベント誘致を目指すのもよいと思います。英国文化が入ってきている発祥の地であればその文化を生かしたものから（紅茶など）魅力を出すのも1つかと思います。将来ヨットやセーリングを見ながら湖畔で女性はアフタヌーンティーを楽しめるような「エレガント」スタイルを目指すことも素敵だと思います。中禅寺湖の歴史文化を発信させた地位の確立があるべきかと思えます。栃木県は紅茶の消費量日本一の地位ももっています。発祥地はまさにこの中禅寺湖だと思えました。今回の写真をまずはストーリーとしてボートハウスなどに掲載し、発信させ、この土地のストーリーを伝えることも必要だと思います。「エレガント」がここでしかできないセーリングの魅力だと考えるとセーリングだけではなく他のプラスαは必要かと思えます。
- セーリングカヌー利用は、いろいろな面で少し無理があると思う。